

犬ヶ岳・津民川地域の地質と地形

犬ヶ岳・津民川地域の北縁は英彦山を最高峰とし、それより犬ヶ岳、経読岳、雁股山、大平山へと伸びる東西性の稜線で、これは大分県と福岡県の県境をなしています。流域には中摩殿畑山、釣鐘山、樋桶山、檜原山など耶馬溪を代表する峰々がみられます（図1）。



図1. 犬ヶ岳・津民川地域の鳥瞰図

犬ヶ岳・津民川地域の地質と地形

耶馬溪層

耶馬溪層は、450～560万年前の火山活動で噴出した溶岩や凝灰角礫岩からなっています。野峠から大平山にいたる稜線のうち、高位の山峰はその後の火山岩類がおおったものですが、より低位の山峰や峠の部分は、侵食によってその火山岩類が取り除かれ、下位の耶馬溪層が露出しています。古峠、雁股峠、のこ岩、そして津民耶馬溪を構成する朝天峰の景、烏帽子岩の景、潜岩の景、川原口の景などの風景は耶馬溪層の分布する地域にみられる、奇岩・奇峰で特徴づけられる耶馬溪式風景の典型です（写真1）。



写真1. 耶馬溪層からなるのこぎり岩

英彦山火山岩類

英彦山火山岩類は下位より宮園安山岩類、釣鐘山安山岩類、八面山安山岩類からなります。最下位の宮園安山岩類は400万年前に噴出したものです。宮園安山岩類は宮園地域の山地をはじめ、奥畑南西方の724m峰などを形成しています（写真2）。

釣鐘山安山岩類は、この地域で最高位の溶岩台地を形成したと考えられていますが、現在は犬ヶ岳の峰々、経読岳、檜原山、樋桶山、中摩殿畑山、釣鐘山、雁股山などの山峰として残っています（写真3）。釣鐘山安

山岩類が堆積した時に1,000m前後の高度をもつ溶岩台面が耶馬溪一帯に形成されたのでしょ

う。八面山安山岩類は、釣鐘山安山岩類からなる山峰を取り巻くように分布します。津民川流域では檜原山南東方の海拔500～600mの台地、雁股山南方の海拔520～650mの台地がこの溶岩からできています。



写真2. 宮園安山岩類からなる奥畑南西方の724m峰

崖と露岩の地形

犬ヶ岳・津民川流域には崖と露岩の地形が広く分布します。これは耶馬溪全体を特徴づける地形です(図2)。崖と露岩は経読岳、小屋ヶ岳、のこ岩にかけての地域にやや多くみられます。ここは耶馬溪層とその上位にのる釣鐘山安山岩類からなり、崖は主

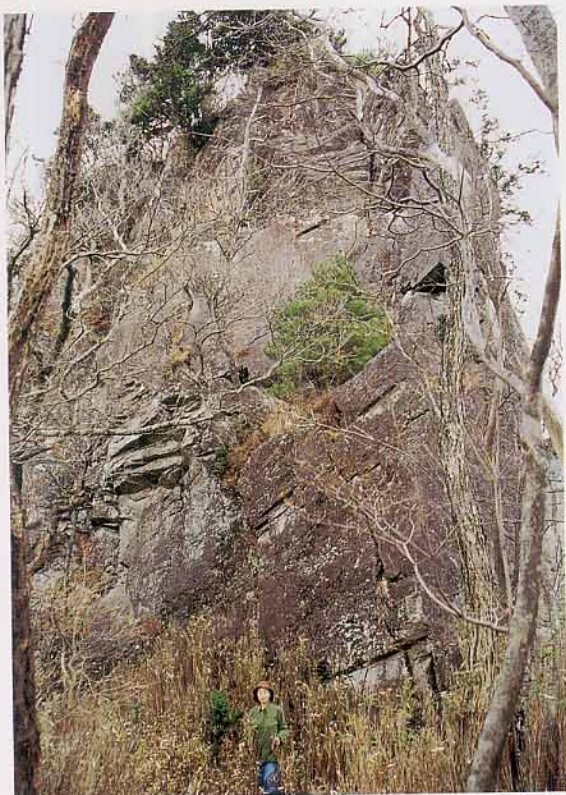


写真3. 釣鐘山安山岩類からなる経読岳付近の露岩



写真4. 耶馬溪層の溶岩部にかかる落合瀑布

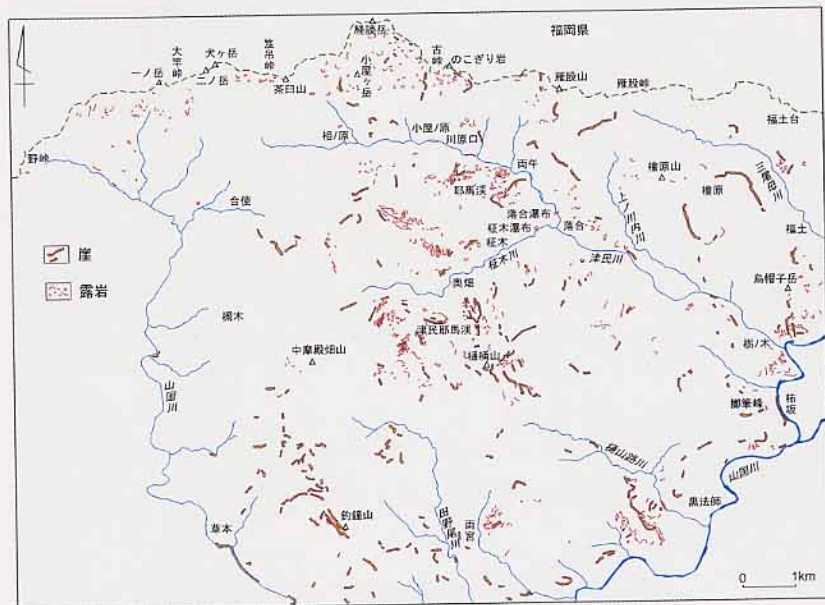


図2. 犬ヶ岳・津民川地域の崖と露岩の分布

として釣鐘山安山岩類の溶岩部や火砕岩部にみられます。

津民川上流部の耶馬溪や榎木川上流部の津民耶馬溪はいずれも耶馬溪層が削られた、耶馬溪式風景で、露岩を主とする風景が広がります。落合瀑布や榎木瀑布は耶馬溪層の溶岩部にかかる滝です(写真4)。釣鐘山の崖は釣鐘山安山岩類の溶岩部にみられる連続的な崖地形で、いわゆる旧耶馬溶岩の風景の典型です。また、樋山路川下流から擲筆峰^{てきひつほう}にかけての崖は、耶馬溪火砕流堆積物からなる台地が削られてできた崖で、山国川南方の山移川や金吉川流域に広くみられる新耶馬溪式風景をつくる崖と同じです。